



シギ・チドリ類調査 ニュースレター

2022年度春期概要

環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査 2022年度春期調査結果の概要

全国115ヶ所のサイトで参加

2022年度春期調査は、2022年4月1日から2022年5月31日までの期間実施されました。全国115ヶ所のサイト（暫定値）で調査が実施され、このうち一斉調査（2022年4月25日を基準日とした前後1週間の調査）への参加は97ヶ所でした。一斉調査期間では、シギ・チドリ類46種33,924羽のほか、ツクシガモ239羽、ヘラサギ11羽、クロツラヘラサギ188羽、ズグロカモメ8羽が記録されました。春期の全サイトの最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の合計では、シギ・チドリ類51種69,172羽のほか、ツクシガモ1,200羽、ヘラサギ58羽、クロツラヘラサギ407羽、ズグロカモメ132羽が記録されました。

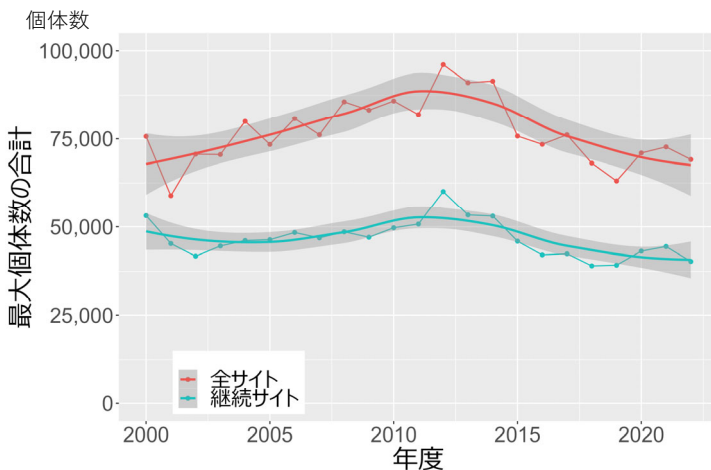


Fig.1. 春期調査における全サイトと継続サイトの最大個体数合計の推移（2000年度から2022年度の継続サイトN=38）年次変動の大きい海上生活者のヒレアシギ類は除外

前年度に比べ個体数は減少

2000年度春期以降の「全サイト」と「継続サイト（調査が継続されているサイト）」のそれぞれの最大個体数の合計を、ヒレアシギ類（年次変動が大きく、海上生活者であるため）を除いてグラフに示しました（Fig.1）。全サイトの最大個体数の合計は、前年度春期と比べ3,537羽減少し69,148羽、継続サイトでは前年度春期と比べ4,199羽減少して40,286羽となりました。全サイト、継続サイトともに、過去2年連続で増加していましたが、2022年度春期は減少に転じました（前年度比で約9%減）。全体としては引き続き減少傾向を示していました。

例年と同じくハマシギが半数を占める

最大個体数における個体数上位5種は、ハマシギ（45.3%）、チュウシャクシギ（11.5%）、キアシシギ（8.2%）、トウネン（6.9%）、ダイゼン（4.4%）となりました（Fig.2）。ハマシギは前年比で4,776羽減少しましたが（Table 1 左表）、全体の約半数の個体数を占め、2000年からの首位をキープしていました（Fig.3）。チュウシャクシギは前年と同じく2位、前年3位のトウネンと4位のキアシシギが入れ替わりました。トウネンは、個体数も前年比で1,711羽減少していました。

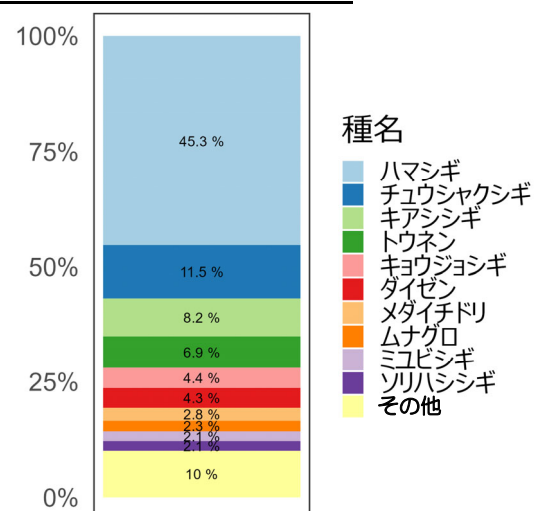


Fig.2. 2022年度春期調査におけるシギ・チドリ類の種構成比

キアシシギ、キョウジョシギが増加

種別最大個体数の前年度比較では、キアシシギの増加幅が最も大きく、42%でした（Table 1 左表）。キョウジョシギ、メダイチドリ、ソリハシギの増加率も20%を越えていました。特にソリハシギは、今年度春期にはじめて、上位10種となりました。また減少数は、ハマシギが最も多かったのですが、減少率ではムナグロが、-43%と大きく落ち込みました。ムナグロは順位も徐々に下降しており、春期の確認数が少なくなっています。日本の水田地帯を中継地として長期間利用することが知られており、生息環境の劣化が懸念されます。

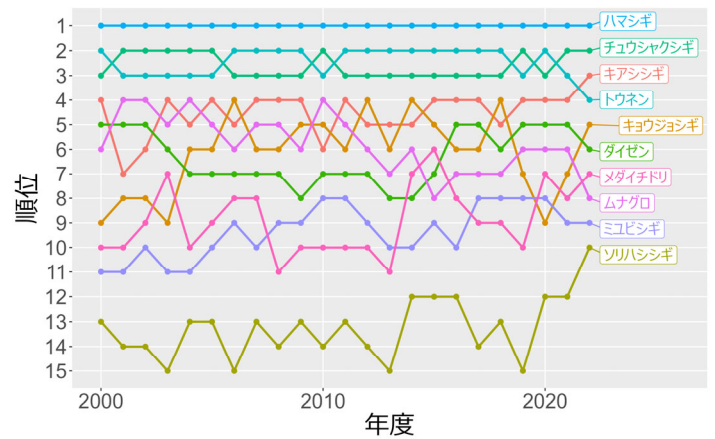


Fig.3. 2022年度春期調査における最大個体数上位10種の順位の変化(2000年度から2022年度)

Table 1. 2022年度春期における種別の最大個体数の前年差 左表: 増加上位5種、右表: 減少上位5種

2022年度春期最大個体数 増加数上位 (全サイト)					2022年度春期最大個体数 減少数上位 (全サイト)				
種名	2021年度春	2022年度春	前年差	前年比	種名	2021年度春	2022年度春	前年差	前年比
キアシシギ	4,010	5,678	1,668	1.42	ハマシギ	36,100	31,324	-4,776	0.87
キョウジョシギ	2,194	3,029	835	1.38	トウネン	6,504	4,793	-1,711	0.74
チュウシャクシギ	7,236	7,937	701	1.10	ムナグロ	2,730	1,562	-1,168	0.57
メダイチドリ	1,536	1,963	427	1.28	ミヤコドリ	834	707	-127	0.85
ソリハシギ	1,143	1,445	302	1.26	オグロシギ	121	58	-63	0.48

西日本のサイトで増減の変化幅が大きい

最も個体数が多かったサイトは例年と同じく大授搦（佐賀県）でした。50羽以上観察されたサイトのうち前年度比で増加数が大きかったサイトは、中津干潟（大分県）、愛宕川～櫛田川河口（三重県）、荒尾干潟（熊本県）が上位であり、例年同様、西日本、太平洋側のサイトの個体数が多い傾向がみられました（Table 2 左表）。一方、減少数が大きかったサイトは、大授搦（佐賀県）、吉野川下流域（徳島県）、雲出川河口五主海岸（三重県）とこちらも西日本のサイトでした（Table 2 右表）。また、鳥の海（宮城県）は、約90%減少していますが、大幅な減少については、シギ・チドリ類の減少のほか、天候や調査時の状況も大きく影響するため、経年的な変化傾向を考慮する必要があります。

Table 2. 2022年春期におけるサイト別の最大個体数の前年差 左表: 増加上位5サイト、右表: 減少上位5サイト

2022年度春期 増加数 上位5サイト					2022年度春期 減少数 上位5サイト				
サイト	2021年度春	2022年度春 ¹	前年差	前年比	サイト	2021年度春	2022年度春 ¹	前年差	前年比
中津干潟	3,825	5,815	1,990	1.52	大授搦	18,373	14,706	-3,667	0.80
愛宕川～櫛田川河口	169	1,096	927	6.49	吉野川下流域	1,542	851	-691	0.55
荒尾海岸	3,233	4,128	895	1.28	雲出川河口五主海岸	704	184	-520	0.26
鹿島新龍海岸	1,584	2,176	592	1.37	清沸湖	731	222	-509	0.30
早津江川河口（川副町）	1,392	1,964	572	1.41	鳥の海	561	61	-500	0.11

¹ 個体数合計50以上のサイトを対象

¹ 個体数合計50以上のサイトを対象

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真: トウネン(守屋年史) 2022年度 春期概要

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ

<http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史

電話/Fax: 042-505-4044

メール: shigichi@bird-research.jp